

令和4年度 第2回 静岡市スポーツ推進審議会 会議概要

- 1 日 時 令和4年8月18日（木）14時00分から16時00分まで
- 2 場 所 静岡市中央体育館 3階 大会議室
- 3 出席者 【委員】（敬称略）
木宮 敬信、川上 健治、森福 研一、祝原 豊、小長谷 忍、
早川 雅美、内川 麻衣子、今泉 幸広、米澤 恵里子、
中地 良成、山瀬 直子
【事務局】
（スポーツ振興課）
谷川参与兼スポーツ振興課長、木村課長補佐兼企画係長、榊原推進係
長、野崎施設第1係長、田村施設第2係長、宮川主査、太田主任主
事、高津（外郭団体交流研修職員）
（スポーツ交流課）
長澤参与兼スポーツ交流課長、山野井主幹兼ホームタウン推進係長
- 4 欠席者 遠藤 知里、大島 友佳里、片桐 晶子、肝付 兼太
- 5 傍聴者 2名
- 6 議 事 (1) 令和3年度スポーツ推進計画の進捗状況について
(2) 第2期静岡市スポーツ推進計画の基本施策について

7 会議概要

司会（宮川主査）

<開会>

谷川参与兼スポーツ振興課長

<挨拶>

司会（宮川主査）

- ・会議成立（委員半数以上の出席により会議成立）
- ・会議の公開
事前の傍聴希望者：2名 傍聴を認める。<異議なし>
当日の会議録は、市のホームページに掲載、情報公開する。<異議なし>
- ・会議録署名人の選出 祝原委員<承諾・異議なし>
- ・配布資料の確認

議事（1）令和3年度スポーツ推進計画の進捗状況について【資料1-1】【資料1-2】

木村課長補佐兼企画係長

・資料1-1、1-2の説明

<委員からの質問・意見>

今泉委員

58番のチャレンジなわとびについて、評価1の実績なのはコロナの影響か？

木村課長補佐兼企画係長

人数を絞って開催しているため、当初の評価基準に照らして評価1となっている。

人数を制限した結果なので、コロナの影響といえる。

大規模なイベントは参加者人数の影響が大きいので、未達成になりがちである。

木宮会長

87番のスポーツ施設見学会について、エスパルスに移管したため未開催となっているが、うまく引き継がれていないのではないか。これに評価1をつけていいのか。

木村課長補佐兼企画係長

これに代わる事業が開催されている可能性はあるが、この事業の評価だと1になってしまう。

また詳細を確認します。

木宮会長

93番のスポーツクリニックの開催について、実績は「中止」となっているが、いろいろと同種の事業を実施していると認識している。それに対する評価はどうなっているのか。

谷川参与兼スポーツ振興課長

この評価シートは既存の計画搭載事業に対する評価なので、代替事業に対する評価はしていない。搭載事業が中止だと「中止」となってしまう。

木宮会長

96番のスポーツと他分野を組み合わせたイベントの開催について、実施目標は年4回実施で参加者80人となっている。実績をみると4回開催しているが、うち1回だけで100人も参加しているイベントがある。計画段階では各20人程度参加するイベントを4回実施する想定だったのではないか。事業名称は同じでも中身を変えているのかもし

れず、評価が難しい。

全体的には、昨年と比較すると、実施できた事業が増えていることがわかる。

事業数も多いので、委員の皆様もまた気になる点があれば個別に事務局に問合せを。

次の議題に入る前に、第2期スポーツ推進計画の概要版について、事務局より説明をお願いします。

木村課長補佐兼企画係長

・概要版の説明

<委員からの意見・質問>

木宮会長

これまでのスポーツ推進計画では「市民一人1スポーツ」を目標にしていたが、静岡型スポーツ・イン・ライフを推進するうえで、一人1スポーツという概念はすぐわかないのではないかと。ジョギングもするし、サッカーも見る、など生活の中で一人がいくつものスポーツに関わるようになってきている。最終目標も新しく設定する必要があるのではないかと。

木村課長補佐兼企画係長

既存計画では「理念」と「目標」があり分かりにくかった。「市民一人1スポーツ」はスローガンのような位置づけだったと思う。

次期計画では基本理念は変わらないが、目標は入れず、スローガンとして「静岡型スポーツ・イン・ライフ」という言葉を入れる。「市民一人1スポーツ」という言葉は前面には出さない予定。

谷川参与兼スポーツ振興課長

静岡型スポーツ・イン・ライフでは、階段昇降など生活の中の身体活動もスポーツという位置づけのため、ほとんどの人が一人1スポーツをすでに達成している。

それに加え、「みる」「支える」も含めて推進していくというのがこれからの市の方針である。

議事（2）第2期静岡市スポーツ推進計画の基本施策について【資料2】

木村課長補佐兼企画係長

・資料2の説明

<委員からの意見・質問>

木宮会長

では、まず「A 誰もが楽しむことのできるスポーツの推進」の部分について何かご意見はありますか。

今泉委員

基本施策の案に「障がい者のスポーツ活動の推進」とあるが、先ほどの評価シートをみると障がい者スポーツに係る事業（136～146番）は中止が多い。このような状況で今後、どのように施策を具現化していくのか。目標を設定するだけでなく、何かできないか、考えてほしい。

谷川参与兼スポーツ振興課長

車椅子バスケットなどパライメントも実施しているが、この計画に登載されている事業が中止になっているため、この計画に対する実績は「中止」となってしまう。

木宮会長

計画に登載しているイベントを開催したかどうかという目標と、施策の達成度の目標という、性格の違う複数の指標があるにも関わらず、評価欄が一つなのでわかりにくいと思われる。今後改善してほしい。

内川委員

基本施策の案に「子育て世代のスポーツ活動の推進」を入れてほしい。母親のスポーツ実施率は子どもへの影響が大きい。記載の「働き盛り世代」という表現だと、専業主婦は除外されているのかと思ってしまう。

木宮会長

実態としてスポーツ実施率が低いのは20～40代の女性。そこにターゲットを絞り、明確に施策として入れることは効果があると思われる。子どもに対する母親の影響力も大きい。基本施策を6つにする方法もある。

山瀬委員

今の流れとして、子育てをするのは女性ばかりではないので、子育て＝女性としないほうが良いのではないか。

木宮会長

20～50代など、シンプルに年代をそのまま書いても良いと思う。

谷川参与兼スポーツ振興課長

働き盛り世代に向けた施策としては勤労者福祉センターの施策などもあるので、良い表現を検討する。

木宮会長

指標の案「週1回以上のスポーツ実施率70%」についてはどうですか。

<異議なし>

木宮会長

次の「地区・学区のスポーツイベントに参加したことがある人の割合」についてはどうですか。

森福委員

地区・学区のスポーツイベントに参加したことがある人の割合が38.4%もあるのに驚いた。思ったより高い。私の地区ではスポーツ大会自体が開催されないが、他ではよく開催されているのか。

木宮会長

地区のスポーツイベントに限らず、地域のイベントへの参加者は全体的に減少傾向。その中で50%という目標は妥当かどうか。また、取組事業の案をみると民間事業者のイベントなど、地区・学区のイベントだけではないようである。

この施策に対する指標はこれで良いのか。

「地区・学区」ではなく「市内のスポーツイベント」とするのも一つの案である。

木村課長補佐兼企画係長

検討します。

木宮会長

続いて、「Bスポーツを日常的に親しむための環境整備」について、どうですか。

米澤委員

スポーツに関するボランティアについて、やってみたい人が15%もいるというのに、スポーツ推進委員の認知度が低く、人探しに苦労している。また、なり手の熱意の差も大きく、学区ごとの体育大会の内容も差が大きい。市もPRをもっと工夫してほしい。

い。

もともとあまりやる気がなくても、実際にスポーツイベントに参加すると、意外と楽しかったという人が多い。気軽に楽しめるスポーツイベントを開催することはスポーツ実施率の向上に意味がある。スポーツボランティアについても、ハードルを低くする工夫が必要ではないか。

木村課長補佐兼企画係長

アンケートや現在の指標では、主に大会ボランティアが対象となっている。ボランティアを希望する人も大会ボランティアを想定していると考えられる。

今後はスポーツ推進委員の活動などについてもこまめにPRしていくようにしたい。

木宮会長

もっと小さなイベントのボランティアや、スポーツ推進委員のことももっとPRしないと、ボランティアを増やすのは難しい。

谷川参与兼スポーツ振興課長

現在、学校部活動の地域移行という動きがある。それに伴い、地域のスポーツボランティアのニーズが増えるので増えていく可能性はある。

長澤参与兼スポーツ交流課長

実際のボランティア活動としては、大会だけでなく、エスパルスのパルちゃんクラブやブルーレブスのボランティアなど、継続的に募集・活動している。

木宮会長

ボランティアは同じ人が継続して活動する傾向があるので、指標の案を割合ではなく延べ人数としたらどうか。割合のままとするならば、実績が1.5%なので、5%程度が妥当ではないか。

木村課長補佐兼企画係長

ボランティアに係る指標は延べ人数で検討したい。

今泉委員

実績が1.5%というのはあまりに低い。周りではスポーツボランティアをしている人はかなりいるように感じる。アンケートの対象はどのような人か。

木村課長補佐兼企画係長

無作為抽出です。

中地委員

ボランティア活動をしていても、ボランティアとは何かという定義がわかっていないため回答していない人がいるのでは。定義を明確にして周知する必要がある。

木宮会長

そのほかにご意見ありますか。

小長谷委員

取組事業の案に「全国大会出場者への補助金交付」とあるが、指標であるスポーツボランティアに関係あるのか。この指標にこの施策はそぐわないのではないか。

木村課長補佐兼企画係長

施策の柱である「スポーツを支えるための人づくり」には貢献するが、指標の案は、施策のうち代表的なものの指標としてしまっているので、補助金交付とボランティアとは直接は関係ない。

小長谷委員

取組事業の案と指標の案が必ずしも対応していないので違和感を感じたが、計画を公表したときに対外的にきちんと説明がつけばよい。

木村課長補佐兼企画係長

指標の案は「ボランティアの割合」で問題ないでしょうか。

基本施策の案「競技力向上への支援」をどの施策の柱に位置付けるのかについては、再度検討する。

木宮会長

ではBの区分のうち、上段については、特段意見が出なかったので原案通り。

下段については、数値目標を検討することと、競技力向上への支援についての項目をどうするか検討していただくということをお願いします。

それでは次のCの区分について何かご意見ありますか。

指標の案である「ホームタウンチームを応援している・関心がある市民の割合」とは、どのホームタウンチームでも良いということか。

木村課長補佐兼企画係長

そのとおり。

木宮会長

他にCの区分では特に意見がないようなので、全体を通して何かありますか。

中地委員

前回の計画では「観る」「する」「支える」の順だったが、今回は「する」「支える」「みる」の順。意図はあるのか。

木村課長補佐兼企画係長

「する」が個人、「支える」が地域、「みる」が市外というイメージ。

谷川参与兼スポーツ振興課長

市がやるべきことから並べた順でもある。

木宮会長

他に何かありますか。

川上副会長

障がい者は学校ではスポーツをやるが、成人するとスポーツから離れてしまう。情報もあまりない。先ほどのボランティアの話でも、周知して理解してもらわないとボランティアが集まらない。スポーツの推進においても障がい者の理解を進めてほしい。また、スポーツなのか運動訓練なのか、について区別はあるか。

谷川参与兼スポーツ振興課長

リハビリなどについては、スポーツに含まれるかどうか整理がついていない。方向性が決まったら伝えさせていただく。

木宮会長

事務局で今後検討してもらう箇所はあるが、以上ですべての議事が終了したので、議長の職を降り、事務局に進行をお願いする。

司会（宮川主査）

最後に事務局から事務連絡になります。

事務連絡

木村課長補佐兼企画係長

- ・次回審議会は、令和4年10月6日開催予定